



発行所  
横浜市西区南軽井沢9  
勸行寺内  
横浜市仏教連合会  
電話(045)311-3557

心を含めて作り、お坊様が読経加持をして、功德力が満ち満ちた供物と成っています。そして、団子まきなどをしていただき食べます。お釈迦様の功德に一人でも多くの人があやかり、平穏な生活が送れますようにと願う。今回、当区仏では涅槃金べい糖をお供物としました。持ち帰って家族におすそ分けして召し上がって、涅槃会のことを物語ってください。「山寺や誰も詣らぬ涅槃像」この俳句のようなお寺が多いかと思えます。今からでも遅くありません。瀬谷区八ヶ寺を含めて、市仏連四三〇ヶ寺の大半のお寺で涅槃会が掛けまわっているはず。今日の日涅槃会をきっかけに菩提寺や近所のお寺へお詣りに行ってください。会場の徳善禅寺様には大層にお世話をおかけしました。満堂の全ての方々に感謝をし瀬谷区仏三巡目の第四十一回、お涅槃会のご参詣ほど、御礼申し上げます。三月八日(火)夜七時。於戸塚区名瀬の九右エ門、若手和尚も混じえて、鉢洗い、慰労会をした。



ご挨拶  
横浜市仏教連合会  
会長 山本信行

自然は地球上に住む人間を始めとして、あらゆる動植物にさまざまな恩恵を与えてくれます。日本の自然の美しさ、移ろいは世界の人びとに賞賛されます。冬は雪が降り、スキーやスケートを楽しむことができ、春は、桜を中心に種々の花ばなを愛でることができます。夏は海スポーツを楽しめますし、秋は、紅葉の素晴らしさを満喫できます。こうした四季折りの良さを体験できるのは人間の企みではありません。地球創造の偶然の賜物でありましょう。日本列島には数え切れないほどの火山帯が存在します。そのお陰で日本国中、いたる所に温泉が湧き出しています。これを目標として国内はもとより、外国からも観光客がたくさん訪れます。火山がある故の恩恵です。しかし、最近の数年間だけでも大震災による大災害が発生し

が代わって会合をしておりです。六月は慰霊堂の御供養の担当で、現在は日蓮宗が二ヶ寺ですが、その時は、随縁寺様遷化によって一ヶ寺でした。各宗派の皆様の御協力によって無事御供養をさせて頂き、仏教会の宗派を越えた普段からの御縁の有難さを感じさせて頂いた御供養となりました。又、同月はモンゴルの抑留殉難の英霊の御供養に行く予定でしたので、地元の方々の御供養をさせて頂いてからの出発となり良かったと思っております。モンゴルは満州の一部で、首都のウランバートルからシベリア鉄道へ繋がる鉄道の敷設にシベリア抑留の人々が従事していました。戦後ロシアがモンゴルを返還したために残ってしまった人々の御供養で、ロシア国境に近い村の役場の裏の未だに遺骨が残されている場所で厳修させて頂きました。十一月二十六日には区内、随縁寺様に新たに住職が決まり、二十九年から仏教会に復帰して下さります。



この震災は日本人が経験したことのないものでした。地面の揺れや陥没、津波はしばしば起きますが原子力発電所の爆発が発生してしまったことです。自然の力に対して人間は無力であることを思い知らされました。多数の死傷者、行方不明者が出ました。助かった人も放射能によって住み家を追われまして。今なお仮住居を余儀なくされている方がいます。完全な復興には永い年月と莫大な費用がかかると思います。しかし、内外の国民の物心両面の暖かい援助によって徐々に復興は進んでいます。被災された方に対して、私たち国民は全力で応援しなくてはなりません。これからの想像を絶するような強大な地震が起きないとも限りません。人間の力では防ぎようもないのですから、被害を最小限にする努力しかありません。地震、雷、火事オヤジと言いますが、このオヤジというのは人間では

なくて、火事が他の何よりも怖いという意味だそう。先年末の糸魚川の大震災では死者がほとんどでなかったのは幸いでした。近所のコミュニケーションがうまく作用したそうです。近頃ご近所とのお付き合いが疎遠がちだという話を聞きます。やはり上手なお付き合いは大切だと思います。最後になりましたが、間もなく私の会長としての任期も終わりますが、この二年間諸大徳様には親身なご指導、ご支援を頂き誠にありがとうございます。特に勸行寺様には会所を提供して下さり、深甚の謝意を表す次第でございます。一番最後になりましたが、会の運営に熱意を以て当たって下さった事務局の方がたのお力を忘れることはできません。深謝申し上げます。

鶴見区 専念寺 佐々木敬易	神奈川区 本覺寺 守長尚文	西区 光源寺 渡辺賢	中区 大圓寺 佐藤功岳	南・港南区 興禪寺 市川智彬	保土ヶ谷区 大仙寺 安達信宏	磯子区 妙法寺 松本慈恵	金沢区 東光禪寺 小澤昌弘	港北区 長福寺 村上宥真	都筑区 福聚寺 齊藤清紀	緑・青葉区 東福寺 高橋英雄	戸塚区 高松寺 西尾宗哲	瀬谷区 西福寺 備前恭忍	泉谷区 西林寺 大橋俊史	栄区 長光寺 菅原紹雄																						
専務理事 佐藤功岳	専務理事 西村健伸	専務理事 柴義彰	専務理事 志村尚雄	専務理事 中村重和	専務理事 守長秀文	専務理事 大沼行正	専務理事 西山聡達	専務理事 亀野哲也	専務理事 橋下賢明	専務理事 河本同文	専務理事 山本信行	専務理事 横山正彦	専務理事 佐藤功岳	専務理事 西村健伸	専務理事 柴義彰	専務理事 志村尚雄	専務理事 中村重和	専務理事 守長秀文	専務理事 大沼行正	専務理事 西山聡達	専務理事 亀野哲也	専務理事 橋下賢明	専務理事 河本同文	専務理事 山本信行	専務理事 横山正彦	専務理事 佐藤功岳	専務理事 西村健伸	専務理事 柴義彰	専務理事 志村尚雄	専務理事 中村重和	専務理事 守長秀文	専務理事 大沼行正	専務理事 西山聡達	専務理事 亀野哲也	専務理事 橋下賢明	専務理事 河本同文

●磯子区仏教会  
会長 松本慈恵  
磯子区の仏教会は、七・八月を除く毎月五十音順で会場寺院

●選考委員担当  
都筑、緑/青葉、泉、保土ヶ谷/旭、神奈川  
(平成29年度・30年度分)



●総会議長担当  
平成29年第44回 中区・南/港南区  
平成30年第45回 保土ヶ谷/旭区・磯子区  
平成31年第46回 金沢区・港北区  
平成32年第47回 都筑区・緑/青葉区

●事務日誌  
28・2・9 涅槃会 瀬谷 於徳善寺  
28・3・1 慰霊堂奉仕通知  
28・4・11 役員会 於勸行寺  
28・4・18 春の仏跡参拝 東京方面  
28・4・22 弔電打電神奈川区東泉寺

28・5・16 役員会 於勸行寺	28・5・23 理事会・総会 於西有寺	28・6・6 慰霊堂奉仕磯子区	28・6・8 役員会 於勸行寺	28・9・11 役員会 於柳せ	28・10・5 慰霊堂奉仕港北区	28・10・8 祝電打電中区西有寺	28・10・24 秋の仏跡参拝 東京方面	28・10・27 弔電打電保土ヶ谷区真福寺	28・10・29 弔電打電旭区福泉寺	28・11・2 祝電打電都筑区長福寺	28・11・7 慰霊堂奉仕金沢区	28・11・18 涅槃会打合わせ 於泉区本興寺	28・11・26 奉讃部写経会 於東林寺	28・12・2 東日本大震災七回忌	28・12・19 法要打ち合わせ 於總持寺	29・1・26 理事会忘年会 於華正樓	役員会 於勸行寺
------------------	---------------------	-----------------	-----------------	-----------------	------------------	-------------------	----------------------	-----------------------	--------------------	--------------------	------------------	-------------------------	----------------------	-------------------	-----------------------	---------------------	----------

●編集後記  
新体制での会報発行が二回目と成りました。不慣れなことが多く他編集員のご助力により何とか勤めさせて頂いています。会員の皆様にも市仏連の活動を伝達し、共鳴・共感を得られる紙面を作成したいと考えています。

●執行役員名簿  
会長 山本信行  
副会長兼奉讃部部長 横山正彦  
副会長兼時局対策委員長  
専務理事 佐藤功岳  
専務理事 西村健伸  
専務理事 柴義彰  
専務理事 志村尚雄  
専務理事 中村重和  
専務理事 守長秀文  
専務理事 大沼行正  
専務理事 西山聡達  
専務理事 亀野哲也  
専務理事 橋下賢明  
専務理事 河本同文





**区仏だより**

●鶴見区仏教会  
会長 佐々木敬易

鶴見区仏教会は会長職が天台系・真言系・禅系・浄土系各寺院の輪番となっており任期二年で、二十八年度はその二年目となります。県下の諸大徳には、本年度も引き続きご教導賜りますようよろしくお願い申し上げます。

昨年度の事業は次の通りでした。

平成二十七年  
七月二十九日(水) 鶴見区仏教婦人会主催「孟蘭盆会灯籠供養」に法要出仕・十一月三日(火・祝) 「つるみ夢広場」への後援十一月三十日(月) 「税務講習会」・「忘年会」平成二十八年  
四月二日(土) 「花まつり」五月二十六日(木) 「総会」以下、主な事業についてご報告申し上げます。

「花まつり」は川上市仏連元会長のご自坊である臨済宗建長寺派松蔭寺様を会所に開催されました。始めに伊豆の国市臨済宗建長寺派寶積寺住職・石井訓広師による法話が行われ、続い



て会員寺院出仕の法要が厳修されました。

法要後には、津軽三味線三絃小田島流小田島徳旺師と男女三名による津軽三味線の演奏が披露されました。また境内では自治会有志による同寺から伝わったというレシビによるけんちゃん汁の炊き出しも行われ参拝者に振る舞われました。

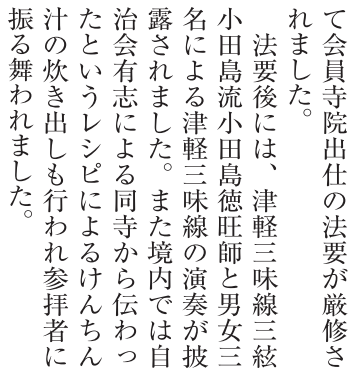
「孟蘭盆会灯籠供養」では、会員寺院出仕の法要が、祭壇とその左右の川岸に並べられた灯籠の前で厳修されました。

「税務講習会」では平成二十八年度より運用のマイナンパー制度について鶴見税務署の統括官上席調査官の方からご説明をいただき、質疑応答が行われました。

なお今期、理事会・総会・講習会等は、各会員寺院にとつて便の良い鶴見駅周辺に会場を設営、またその後懇親会を設け相互の懇親の一助と致しました。以上、雑駁ですが報告申し上げます。

●港北区仏教会  
会長 村上育真

平成二十八年三月六日港北区仏教会にて、興禅寺金子慈潤会長の後を引き継ぎ会長を務めさせて頂くことになりました。副会長に曹洞二名、天台一名、真言一名の方をお願いしました。また、地区理事六名、顧問五



それが心残り。実は仏教の教えは、心のしこりをもみほぐして、安らかにしてくれる教えなのです。しかし、人間は十人十色。百人百態。私は『世相百態』という本を書いたことがあります。人が、人それぞれで、いろいろな人がいます。辞書で、百態をしらべると、百はさまざまをあらわす。つまり、それぞれ、鳥倉千代子も歌っていますね。『人生いろいろ』・・・

今日のお話は、人生に花を咲かせるような気持ちで聴いてください。

世相百態の視点で、世界の事象を観ると、さまざまな問題が見えてきます。ジカ熱など、これまではピンとこなかった蚊を媒介にした問題もありました。虐待による殺人、養子にした孫に殺されてしまったお年寄りもいる。世の中マナーではなく、マナーになっってしまった風潮もあります。

最近では、考えられないようなことが当たり前のように起きています。普段から、前だけでなく後ろにも目をつけて気を付けなければならぬ世の中になりました。

名、監査二名、事務局長・会計各一名の二十名の布陣で、会の運営を行っています。年に一回の役員会は親睦を兼ね従来より「和」を重んじる区仏の施策で潤滑に運営されています。

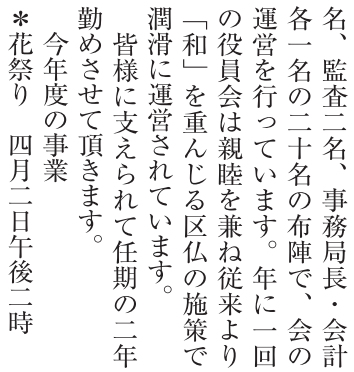
皆様にご支えられて任期の二年勤めさせて頂きます。

今年度の事業  
\*花祭り 四月二日午後二時 会場 西方寺  
\*東照寺詠歌講にて入堂、灌仏・読経・社会福祉協議会に寄付金贈呈・式集 退堂。会長挨拶、  
講演会 落語 柳家喬太郎師匠  
\*研修会 六月一九日午後四時 会場 西方寺 講師 神奈川県仏教会顧問 阿部陽一先生  
題目「宗教法人規則解説」  
\*県慰霊堂出仕 平成二十八年十月五日真言宗御寺院にて厳修  
\*役員会 平成二十九年一月二日 オークラ本店  
港北区は他県から移り住む人も数多くおり、郷里の宗派を探す方と電話でお話しさせて頂いたこともありました。

花祭り、研修会の行事を紹介して区内四十五ヶ寺の宗派の所在を知って頂き、心の安らぎを与えられればと願っております。

●金沢区仏教会  
副会長 佐伯隆道

平成二十八年度の活動を報告します。四月三日に「花まつり



大会」を区内六浦地区で行いました。

小雨の降るお天気の中、約五十名のお稚児さんと共に来賓・保護者・鼓笛隊・御詠歌講中・奉賛会員・住職等々三百名余が傘を広げ、光傳寺から会場寺院の長生寺へ行列しました。

今回で七十回目を迎え、毎年数十名のお稚児様がお釈迦様とご縁を結ばれます。かつて稚児で参加された方が今度は自身の子どもを、さらに孫を稚児に出される方も増えてきました。

四月十四日には、住職及び寺院による「古寺参拝研修」として浄土宗大本山増上寺へ参拝。五月には熊本地震災義援金として五十万円を神奈川新聞を通して寄付。

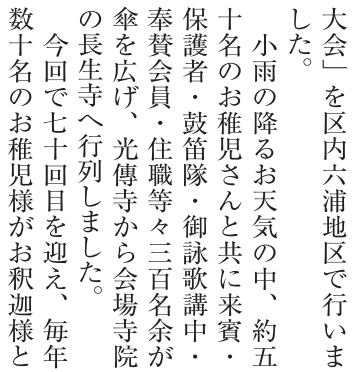
六月の金沢区積尊奉讃会の「一泊旅行」は、「真田丸」の大河ドラマ館のある上田城址公園・真田家菩提寺の曹洞宗長國寺、翌日には御柱祭のあった諏訪大社上社・下社を参拝。

十月二十二日「交通安全取物故者追悼法要・交通安全祈願法要」を薬王寺で行いました。

物故者遺族・奉賛会役員・議員の方々・横浜市仏教連合会山本会長にもご参加いただきました。

十一月十五日「寺務研究会」を称名寺で行いました。

金沢警察署より生活安全課から講師を招き、「寺院の防犯・振り込め詐欺について」というテーマで、区内の犯罪状況・振



り込め詐欺については、実際にかかってきた電話音声聞かせていただき、その手口の巧妙さに恐ろしさを感じました。

区内では今年だけで五十数件あり、振り込め詐欺の被害が激増しているそうです。

警察だけではなくはや限界にあり、高齢者が多く訪れるお寺からもお檀家さんなどに注意喚起をしていくべきで、こういったことも今の寺院に求められている部分だと感じました。

●瀬谷区仏教会  
会長 備前恭忍

平成二十八年二月九日(火) 区仏会長備前恭忍の挨拶文より。

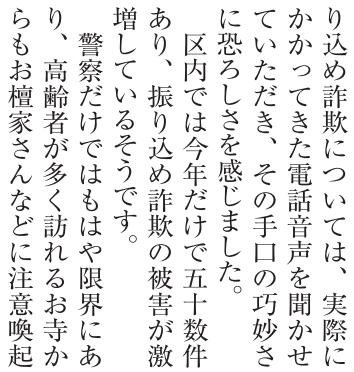
皆様、こんにちは。第四十一回市仏連合主催、瀬谷区仏担当の積尊涅槃会に県仏、市仏、各区仏の諸大徳や檀信徒の方々が、大勢集え、お詣りされ、法要の部、無魔厳修できました。

お陰様で仏陀釈尊に相まみえ、仏法を聴くご縁にあずかり良かった、ありがたいなあ、との思いで一杯です。

本日の講師の鈴木永城先生の招来には、泉区の東泉寺、関水俊道師にお世話になりました。

さて、お涅槃のお供え物には涅槃団子、智慧団子、涅槃あられなどがありません。

お釈迦様のお骨、仏舍利に見立てて信者さん、地域の人達が



**第四十一回涅槃会開催**  
於徳善寺瀬谷区仏教会担当

第四十一回当会主催の涅槃会が平成二十八年二月九日(月)瀬谷区仏教会担当で、曹洞宗徳善寺様を会場として開催された。

当日は瀬谷区仏教会寺院諸師を中心に、午後一時半より徳善寺・尾崎正善住職の開式の辞により涅槃会法要が始まる。導師を勤めた市仏連山本信行会長から表白文が奉読され、読経の音が厳かに本堂内に響いた。指名焼香では、県仏教会和田大雅会長代行・木内雅明副会長、当会玄野孝善顧問、川上敬吾顧問、徳善寺役員が仏前に進まれた。第二部では、市仏連山本会長、横山副会長、県仏木内副会長、区仏備前会長の挨拶に続き、鈴木永城師より講演をいただいた。

二月四日は、暦の上では立春とは言えまだまだ寒い日が続いています。月曜日から火曜日に雪が降るのではないかと心配しました。けれども、一点の曇りもない青空が広がり、ひとえに皆様のご精進のためものと思っております。

ところで、細川たかしの「心のこり」という歌をご存じでしょうか。この心残りを、「心のこり」と読んで首を傾げた人もいたと聞きますが、あながち間違いでもないようです。ヤマイダレに固と書いて「痲り(しこり)」となります。

しこりというのは、質の悪い状態が、からだに現れることとあります。これが心の問題になると、物事が済んだ後でも、すっきりしない気持ちになる。

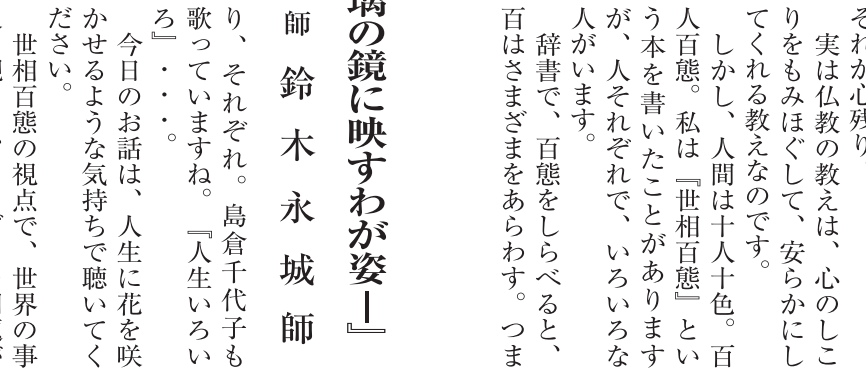


『仏教世相百態 浄玻璃の鏡に映すわが姿』  
講師 鈴木永城師

二月四日は、暦の上では立春とは言えまだまだ寒い日が続いています。月曜日から火曜日に雪が降るのではないかと心配しました。けれども、一点の曇りもない青空が広がり、ひとえに皆様のご精進のためものと思っております。

ところで、細川たかしの「心のこり」という歌をご存じでしょうか。この心残りを、「心のこり」と読んで首を傾げた人もいたと聞きますが、あながち間違いでもないようです。ヤマイダレに固と書いて「痲り(しこり)」となります。

しこりというのは、質の悪い状態が、からだに現れることとあります。これが心の問題になると、物事が済んだ後でも、すっきりしない気持ちになる。



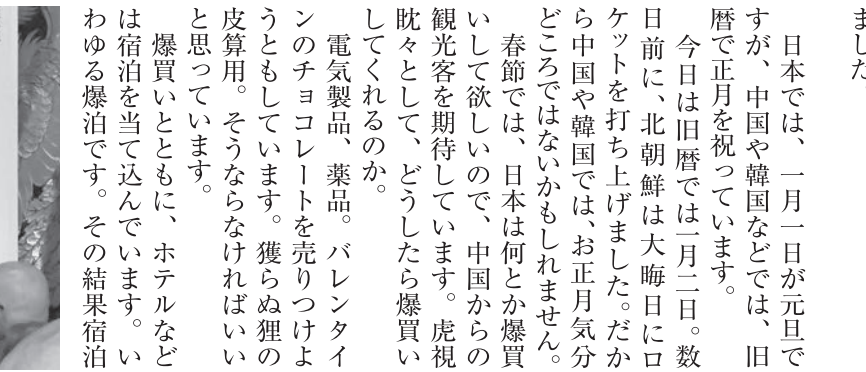
日本では、一月一日が元旦ですが、中国や韓国などでは、旧暦で正月を祝っています。

今日は旧暦では二月二日。数日前に、北朝鮮は大晦日に口ケツトを打ち上げました。だから中国や韓国では、お正月気分どころではないかもしれません。

春節では、日本は何か爆買いして欲しいので、中国からの観光客を期待しています。虎視眈々として、どうしたら爆買してくれるのか。

電気製品、薬品。バレンタインのチョココレートを売りつけようともしています。獲らぬ狸の皮算用。そうならなければいいと思っています。

爆買いとともに、ホテルなどは宿泊を当て込んでいます。いわゆる爆泊です。その結果宿泊



地が中国人などに抑えられてしまい、日本の観光客の泊まるどころが無いともいいます。

ところで、暦と言えはカレンダー。お寺ではたぐさんのカレンダーを載せます。

そのうちのひとつ。出光石油は出光美術館の墨蹟をカレンダーにしています。

一枚目は猿の墨絵でした。

申年の人は九九一万人だそうです。これは日本の人口の七八%に当たります。申年生まれは十二支では比較的少ないようですが、頭がいい、手先が器用、素早い、行動力がある、愛嬌があると言われています。良いことづくめですね。

その反面、賢すぎるから自信過剰、早とちりという欠点があるそうです。人間の長短、いい面も悪い面もあるのです。

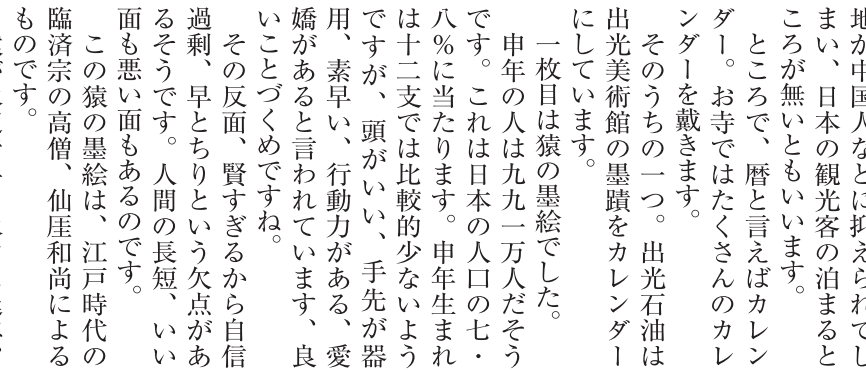
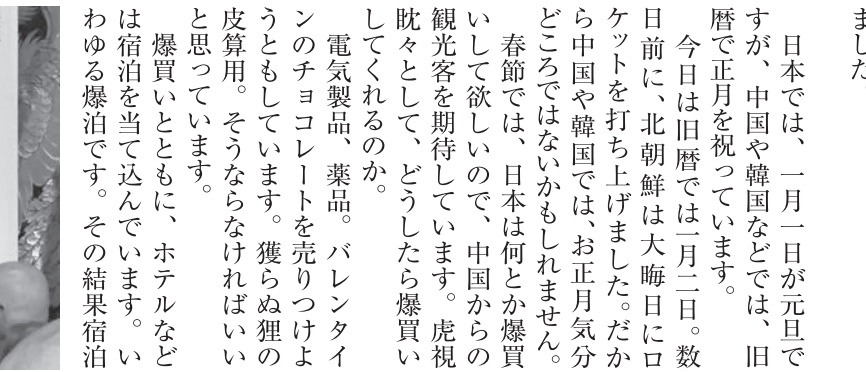
この猿の墨絵は、江戸時代の臨済宗の高僧、仙厓和尚によるものです。

猿が水辺で手を水中に延べ、その先に蟹が居て、「世の中を何に例えん 猿猴の 片手伸べれば 片手短し」という一首が添えてあります。

「一得一失」と言いますが、仙厓和尚は、地位や能力を過信して、欲を出しすぎて身を滅ぼす。これを絵で表現しました。

「猿猴捉月」という言葉もあります。これは「僧祇律」というお経の中にある言葉です。

猿たちが木の枝から、次々と





した通りです。時局対策委員会は平成九年に発足いたしました。最初の事業であるアンケート調査の結果、葬儀時刻が寺に相談も無く決められたトラブルや、マンション坊主と称される者の暗躍なども問題が寄せられました。

また、中江兆民さんが遺言として残したとされる、宗教色を排除した「お別れ会」から始まったとされる「告別式」という呼称が葬儀の看板に記載されるようになりまし。

「告別式」と記されると僧侶来るな・神主も来るなということになります。キリスト教会で行われる葬儀は何故かまだ「告別式」とは呼ばれていないので、九五%が仏教葬儀とされる中で失礼の極みであります。

また、市営火葬場では非効率な運営が顕著となっております。別図は今年一月の火葬炉の空き状況ですが、朝の時間帯に多くの受入れを設定してあり、市民の希望が集中する十一時三十分以後の時間帯にはあまり配慮がなされていないと判断できません。

これでは市民に我慢を強要しているといわざるを得ず、火葬炉の稼働数やその時間帯などの改善要求をする必要があるでしょう。現在、久保山は十二基の火葬炉を有し・南部は十基・戸塚は八基・北部は十六基あります。一日の火葬数を数えると、有効な運営と断言すること



東日本大震災の四十九日目、被災地に行きました。合同慰霊祭の折しも被災地は惨憺たる状況でした。その後、三陸の人から「今年はワカメが豊富だ」と聞きました。震災は余りに犠牲が多すぎましたが、その結果、海底が攪拌され、つまりかき混ぜられ、養殖を助長したとも思えます。

自然というものは私たちに恩恵を与えてくれる、しかしそれだけでなく、私たちから、命や財産を奪う存在でもあります。天の恵みの裏返しに災害があるという教訓です。

「欲は欲しいままにすべからず。欲しいままにすれば災い生ずる」それは人生にも当てはまることで、そういうことに目覚めることが大事なのでしょう。

以前、「老眼や 探す眼鏡は鼻の上」という一句を詠んだことがありますが、机の上に置いたはずのメガネ

がいない。誰だ、俺のメガネはどこか！と探していると、妻が「掛けていらっしやいますよ」。そんなときはわざと丁寧な言葉で教えてくれるのです。(笑い)

誰でも自分がかわいいものです。そこで自己主張をする。仏教でいう「我見」、我愛です。近くのデパートにレストランがあり、たまに行くのですが、そこでも世相百態を観ることが出来ます。

あるご婦人三人組が食事をしていて、一人が「この前、美川憲一のデイナーショーに行ったのよ」。別の婦人が「教えてくれればいいのに」。すると、「だって、お高いのよ」と言っ

て、おもむろにバックからツーショットの写真を出して見せました。すると「お綺麗ね・・・」

美川憲一。三人目の婦人は「私、演歌はダメなの、クラシックじゃなければ・・・」

まさに三者三様です。自身は自己主張をしているつもりはなくても、どこかに嫌み、含みが出てしまうようです。

「お綺麗ね、美川憲一も、そしてあなたも」と言うことができればよかったのに、なかなかそう言えないのです。

葬儀や法事の席で、相執争いの場面に会うこともあります。それも、お経をあげている最中、当事者ともなると場所柄など眼中に無いほど視野が狭まってしまふものです。これは要注意です。

日本の社会を切り取ってみると、恥の意識が失われているのではないのでしょうか。

コンビニの前で、若者が座り込んでカップラーメンを食べている。あの姿はあまりにも酷い。そこで一句詠みました。「お預けのできない人とできる犬」

恥ずかしいという、日本人にかつてあった恥の文化が無くなってしまったのでしょうか。

ここで、明恵上人の言葉を紹介します。上人は鎌倉時代、高山寺の中興となる名僧です。「人は常に浄玻璃（じようはり）の鏡?に、日夜の振舞のうつる事を思うべし。是は隠れたる所なれば、是は心中に窃（ひそ）

「熟れるまで お預けします 仏様」という川柳があります。仏壇にメロンなどをお供えする。それが食べ頃になったら下して自分たちが戴く。

外見からは本尊様、ご先祖様を敬っているように見えるけれども、本心は違っていたりする。人として命や生き方をどう見るか、心をどのように養うか、そういう基本的な事柄こそが大切

です。

「人の命をモノとして、部品として捉えるからそういう言葉が出るのでしょう。恐ろしいことです。」

子供ばかりではありません。人として命や生き方をどう見るか、心をどのように養うか、そういう基本的な事柄こそが大切

「人の命をモノとして、部品として捉えるからそういう言葉が出るのでしょう。恐ろしいことです。」

こんな話があります。交差点で信号待ちをしていたとき、歩行してくる年寄りを見て、母親と一緒にいた幼い子供が「あのお爺さん、きつと電池切れるかもね。」とつぶやいたと言った。

人の命をモノとして、部品として捉えるからそういう言葉が出るのでしょう。恐ろしいことです。

子供ばかりではありません。人として命や生き方をどう見るか、心をどのように養うか、そういう基本的な事柄こそが大切

「人の命をモノとして、部品として捉えるからそういう言葉が出るのでしょう。恐ろしいことです。」

「これでは「この場を去る」(笑い拍手)

だつたら、お供えするの必要がないんじゃないの?」

これは素朴な疑問ですが、親もそう思っているとしたら、やはり形式倒れでしかありません。仏や先祖に通じるとも思えません。

仏教では「香味」「香食」を説いています。モノを食べるのではなく、香りを召し上がるから減らないのです。その香りは、差し上げる人のまごころでもあります。

は困難です。一火葬に要する時間は七十分となつていようですが、小生が昨年東京の町屋火葬場に行きしたのは三十五分でお骨あげの案内が来ました。早ければいいという訳でも有りませんが、公営と私営との格差に疑問が生じてしまいました。

こうした火葬場の運営と、葬儀社の遺体保管業務とが相まって火葬炉や会場がすぐに確保出来ず初七日法要が正当日を過ぎる執行出来ない場合が出てきております。

当山では、市営会場ばかりでは無く寺院所有の会館も使用して、そのようなことが無いように提案・指導しております。葬儀日が初七日を過ぎることを認めることは、今後の年忌法要や法事全般に悪影響を与えかねません。後に続く子弟に憂いを残さないように、気がついた私たちがきちんと対処することが重要

因みに相模原市の相模原仏教会では「市民生活向上」の一環として市民が納得する火葬場の運営をめざし、行政と意見交換をしております。

また、「正時」(しよじ)という考えが軽んぜられた事は無かったのではないのでしょうか。いかなる時も大切な行事の開始時刻は「正時」でありました。

入学式も結婚式も式といえ「正時」に始まりました。「半」という半端な時刻は使わ

れてきませんでした。人生での大事な行事という考えがあったからだと思えます。人生最後の式を「正時」で行えない事は有終の美を踏みにじることに通じます。

細かいことに拘るなという意見も有りましようが、お檀家が気づかず犯してしまう非礼を、修正することも寺院の努めではないでしょうか。

私たちが声を出さなければ誰が仏教文化を維持していくので

これで安心

心ゆく、よりよき葬儀のために

お通夜・御葬儀は宗教儀式です。

- 生前にお寺と御葬儀の相談をすることはタブーではありません
- 「もしも」が起ってしまったら、まずお寺へ
- そうなる前に生前からお寺と相談しておきましょう (特に医師から告示を受けたときなど)
- 葬式の日時決定の際は、お寺の都合も配慮しましょう (八割以上のご法事、埋葬は土曜・日曜日を利用しておられます。)
- 決まったお寺のない方は、近くのお寺でお気軽にご相談下さい
- 段取り・費用・葬儀社選び等お寺で相談できます
- 生前に葬儀社選びをしておきましょう (特に費用やサービス等で)

葬儀社紹介の僧侶の中には遠隔地であったり、寺がなかったりする場合もあります (以後の法要を受けてもらえないこともあります。)

- 病院で紹介された葬儀社を断わってもさしつかえありません

\*お願い……ご葬儀終了後、葬儀社に関する情報提供にもご協力ください\*

横浜市仏教連合会

(佐藤 功岳)

「葬儀事前相談」推進パンフレット



小生が葬儀事情に疑問を抱いたのは、バブル時代の昭和六十年頃でした。その頃は、葬儀の場所が自宅から会館に移り始めていました。

お通夜の時、自宅の場合は回向が終了しそこで施主が御礼の挨拶をしました。その後、広間や庭のテントに通夜振る舞いの支度が始められるのが、通常でした。通夜の式中には全く飲食は無かったです。神道の直礼と同様に神仏にお供え物をして法要を営んだ後にお供えをお下げて皆で頂くという、宗教行為を心得ていたからだと考えます。

しかし、会館では沢山の弔問客を全部収納するスペースを建設することができず、経費上も困難であったのでしよう。狭いスペースで多くの弔問客を捌くのは無理なこと、客は焼香が終わっても、式終了まで待機する場所が無い、帰らざるを得なくなりました。通夜・葬儀を滞りなく行うという暗黙の契約は達成されなくなり、通夜振る舞いの接待をすることが出来ません。自宅葬ではあり得ないことで、お施主さんの面子は丸つぶれとなってしまいました。

### 時局レター11

とは、焼香が終わった弔問客に別部屋で飲食を提供した上で帰宅させることでした。病院で何日も危篤が続き、臨終を看取らない施主にはまともな判断も出来ないでいます。

かつては長老が葬儀の際には仕切ってくれたのですが、そうしたこともなくなりました。こうした宗教儀礼に疎い一部の葬儀社の主導により、み仏にお越し頂いている御前で、神仏を敬うことの無い作法が始まったのです。

祭壇の前では親族が一心に祈りを捧げていても、関わりが少ない弔問客は別席なのをいいことに、半ば宴会に近くなり、酷いときには笑い声まで漏れてきておりました。

空き情報一覧表(一例)

久保山斎場					戸塚斎場				
日付	01月11日	01月12日	01月13日	01月14日	日付	01月11日	01月12日	01月13日	01月14日
9時	4	-	4	6	9時	4	4	4	4
9時30分	2	-	2	0	9時30分	0	0	0	0
10時	2	-	3	5	10時	2	2	2	2
10時30分	2	-	2	0	10時30分	0	0	0	0
11時	2	-	4	6	11時	1	1	1	1
11時30分	2	-	2	0	11時30分	1	1	1	1
12時	1	-	3	5	12時	0	1	1	1
12時30分	2	-	2	0	12時30分	1	1	1	1
13時	4	-	4	6	13時	1	1	1	1
13時30分	2	-	2	0	13時30分	1	1	1	1
14時	3	-	3	5	14時	3	3	3	3
14時30分	2	-	2	0	14時30分	0	0	0	0
15時	2	-	3	3	15時	1	1	1	1
15時30分	0	-	0	0	15時30分	0	0	0	0
通夜					18時	0	1	1	1
告別					19時	1	1	1	1
					10時	0	0	1	1
					11時	0	1	1	1

南部斎場					北部斎場				
日付	01月11日	01月12日	01月13日	01月14日	日付	01月11日	01月12日	01月13日	01月14日
9時	3	3	3	3	9時	7	7	7	7
9時30分	0	0	0	0	9時30分	0	0	0	0
10時	3	3	3	3	10時	6	6	6	6
10時30分	0	0	0	0	10時30分	0	0	0	0
11時	2	3	3	3	11時	3	5	5	5
11時30分	0	0	0	0	11時30分	0	0	0	0
12時	2	3	3	3	12時	3	4	4	4
12時30分	0	0	0	0	12時30分	0	0	0	0
13時	3	4	4	4	13時	6	7	7	7
13時30分	0	0	0	0	13時30分	0	0	0	0
14時	4	4	4	4	14時	6	6	6	6
14時30分	0	0	0	0	14時30分	0	0	0	0
15時	4	4	4	4	15時	3	3	3	3
15時30分	0	0	0	0	15時30分	0	0	0	0
通夜					18時	2	2	2	2
告別					19時	2	2	2	2
					10時	0	2	2	2
					11時	0	2	2	2

勿論このような式の進め方は、寺院が提案した訳でも無く、了解を求められた訳でもありませんでした。

重要な宗教儀式の一つであり、大きな布教の機会でもある通夜葬儀の場を補助するべき葬儀社が儀式までも主導してしまっただけの結果でしょう。

残念なことにもこのような状態を

大多数の仏教寺院が看過してしまいました。

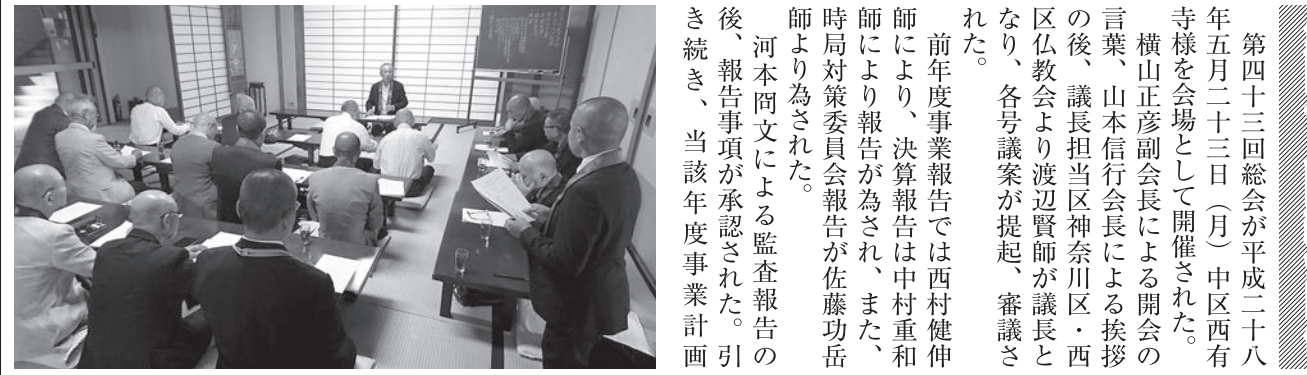
また、会館を有している葬儀社は会館の有効回転を追求したため、施主さんに寺院との打ち合わせを促さずに日程を決定してしまい、寺院とのトラブルがかなりの時期続きました。

このように、寺院が適切な意見を表しなかつたため、葬儀社

の独走が始まってしまいました。そして、昭和六十一年頃からは葬儀社から仕事を貰う一部の僧侶や寺院のリベート競争も始まりました。

これで、葬儀社は完全に寺院を支配する立場を確保したのです。この頃から、一気に仏教化への侵食が増えてきたことは、既に時局レター等でご案内

### 第四十三回総会開催



第四十三回総会が平成二十八年五月二十三日(月)中区西有寺様を会場として開催された。

横山正彦副会長による開会の言葉、山本信行会長による挨拶の後、議長担当区神奈川区・西区仏教会より渡辺賢師が議長となり、各号議案が提起、審議された。

前年度事業報告では西村健伸師により、決算報告は中村重和師により報告が為され、また、時局対策委員会報告が佐藤功岳師より為された。

河本岡文による監査報告の後、報告事項が承認された。引き続き、当該年度事業計画

### 市仏連の活動

(案)、予算(案)が提起され、了承された。

会則改定については、返信状況を再度確認した上で、改定案会にて検討し再度総会にて審議する事となった。

市仏連の活動に於いては春の仏跡参拝旅行にてバス3台に及ぶ参加を頂き、御礼を申せられ引き続き参加協力が呼びかけられた。

引き続き西有寺客殿に於いて懇親を深めて散会した。

副会長 横山正彦

改歳の令辰、市内各御寺院様平成二十九丁酉の年を、恙なくお迎えの事と拝察申し上げま

玄野前会長の時に拝命いただいて、現山本会長へと引き継いでまいりました。

市仏連の主な行事といたしまして、各区仏持ち回りの積尊涅槃会、春秋の各宗寺院参拝、旧積尊奉賛会を発展的に解消して、市仏連の中の一つの部として再生した奉賛部としての活動、会報発行、県仏、区仏との相互交流等があります。

奉賛部に関しては、各区仏より二三名の賛助会員を選出していただき、まずその方々を核として諸行事のご案内をし

### 写経会開催

奉賛部主催の写経会が、十一月二十六日(土曜日)、港北区・東林寺様を会場として開催

初めに希望の多かった写経の会を実行致しました。その他、仏像を彫る会、写仏等随時計画中でございます。

市仏連は各宗派にわたる為、どうしても宗派の行事が優先されますが、区仏のご寺院様、檀信徒の方々、知人の方々等声をかけていただき、重なる場合合振り分けて市仏連の諸行事にも参加頂きますようお願い致します。

行動する事が大事という気持ちで少人数でも行っていくつもりであります。どうぞ良い提案等がありましたらご指導ご支援の程お願い申し上げます。

### 歳末理事会と納会の記

平成二十八年十二月十九日(月)中華街「華正樓」に於いて午後五時より理事会、午後六時より納会が催された。

議題①、第四十二回涅槃会/記念講演の件。

平成二十九年二月七日(火)午後二時より、於泉区上飯田三三六二四日蓮宗 本興寺。

講師は講談師の龍齋貞鏡師。演題「お釈迦さま御一代記」。

議題②、第四十四回総会日時について。

平成二十九年五月十九日(月)午後四時より理事会、五時より総会。

於勸行寺を予定。総会議長は、南/港南区、中区担当。

議題③、東日本大震災七回忌法要の件。

第五回祈りの夕べに参加協力。平成二十九年三月十一日(土)午後二時半より、於曹洞宗大本山總持寺。

議題④、春の仏跡参拝旅行の件。

平成二十九年四月二十(木・友引)



### 追加報告

◎ 県慰霊堂奉仕の日程が更新された。(会報最終頁参照)

東京方面または成田山または日光泊の三案が出され事務局一任にて検討し決定する事となった。

議題⑤、県慰霊堂奉仕の件。平成二十九年度は六月、七月、八月、九月、十月、十一月、十二月、保土ヶ谷/旭区、十月鶴見区を予定。

時局対策委員会より会員寺院向けに葬儀に関するポスターを配布するので掲示の依頼がなされた。

六時より納会。

顧問弁護士遠藤先生より近況の問題をご紹介いただき、夫婦別姓に定める民法の合憲問題、核家族化に関する諸問題などお話し頂き、有意義な語らいの時を過ごし、閉宴言葉でおひらきとなった。



<p>横濱市仏教連合会副会長 奉讃部部长 曹洞宗萬徳寺住職</p> <p><b>横山正彦</b></p> <p>〒220-0031 西区宮崎町三三二 電話 二四二-四五三三</p>	<p>横濱市仏教連合会会長 高野山真言宗長王寺住職</p> <p><b>山本信行</b></p> <p>〒224-0053 都筑区池辺町二八二七 電話 九四一-一三六七</p>	<p>横濱市仏教連合会顧問 曹洞宗長昌寺住職</p> <p><b>玄野孝善</b></p> <p>〒241-0822 旭区さちが丘五九九 電話 三九一-一三七九</p>	<p>横濱市仏教連合会顧問 法華宗陣門流勸行寺住職</p> <p><b>都築哲信</b></p> <p>〒220-0002 西区南軽井沢九 電話 三一-一三五七</p>
<p>横濱市仏教連合会常務理事 鶴見区仏教会長 浄土宗専念寺住職</p> <p><b>佐々木敬易</b></p> <p>〒230-0022 鶴見区市場東中町三一八 電話 五〇一-八〇六四</p>	<p>横濱市仏教連合会奉讃部相談役 高野山真言宗般若院住職</p> <p><b>星野英秀</b></p> <p>〒244-0842 栄区飯島町二一四九 電話 八九一-一七〇一</p>	<p>横濱市仏教連合会監事 高野山真言宗萬藏寺住職</p> <p><b>河本岡文</b></p> <p>〒226-0012 緑区上山二一五-二 電話 九三一-一五七三</p>	<p>横濱市仏教連合会副会長 時局対策委員長・中区仏教会長 日蓮宗大圓寺住職</p> <p><b>佐藤功岳</b></p> <p>〒231-0859 中区大平町九九四 電話 六四一-四九三三</p>
<p>横濱市仏教連合会常務理事 保土ヶ谷・旭区仏教会長 高野山真言宗大仙寺住職</p> <p><b>安達信宏</b></p> <p>〒240-0014 保土ヶ谷区霞台一五一-一六 電話 三三一-二九〇五</p>	<p>横濱市仏教連合会常務理事 緑・青葉区仏教会長 真言宗豊山派東福寺住職</p> <p><b>高橋英雄</b></p> <p>〒225-0024 青葉区市ヶ尾五二七-二 電話 九七一-一三六〇六</p>	<p>横濱市仏教連合会常務理事 南・港南区仏教会長 曹洞宗興禅寺住職</p> <p><b>市川智彬</b></p> <p>〒232-0007 南区清水ヶ丘二二五 電話 二三一-七五九〇</p>	<p>横濱市仏教連合会常務理事 神奈川区仏教会長 曹洞宗本覺寺住職</p> <p><b>守長尚文</b></p> <p>〒221-0833 神奈川区高島台一-二 電話 三二二-〇一九一</p>

# 市仏連 秋の参拝旅行

平成二十八年十月二十四日に横濱市仏教連合会「増上寺・寛永寺参拝と築地場外市場の旅」が開催された。今回の旅行は、百名を超える参加者が有りバス三台の行程となった。午前八時に横浜駅西口天理ビル前を出発したが首都高速湾岸線が渋滞しており増上寺に到着が遅れた。増上寺到着後バス号車ごとに本堂前で記念写真を取り本堂で増上寺の縁起のお話を伺った。



後に、江戸幕府徳川將軍家の墓所をご案内頂いた。墓所の二代、六代、七代、九代、十二代、十四代將軍の宝塔を参拝した。



交通渋滞により時間がかかったため予定を変更し先に品川プリンスホテル「ハバナ」でランチブッフェの昼食となった。名物のゆで蟹食べ放題の他、和食・中華・洋食・デザートを参加者各々好きな物を選び、昼食を取った。

昼食後は、移動問題が話題の築地場外市場の見学をした。場外市場は平日にも係わらず賑わっており人混みの中お土産を買ったり見学をしたりした。その後上野

寛永寺を参拝。本堂にて寛永寺の縁起のお話を伺った。後に、「葵の間」徳川十五代將軍慶喜公が謹慎された部屋を特別に見学し江戸幕府徳川歴代將軍御靈廟をご案内頂いた。



靈廟の、四代、五代、八代、十代、十一代、十三代將軍の御宝塔を参拝した。参拝後、東京都庁見学をした。都庁展望フロアを見学した。予定であったエレベーターは長蛇の列になっており時間の関係上1号車の参加者のみ展望階を見学した。帰路に就き天理ビル前で解散となった。今回の旅行は天候に恵まれたが交通渋滞があり予定の変更を余儀なくされた事は残念であったが大勢の参加者を得て有意義な旅行になった。

また、旅行初参加者には横濱市仏教連合会特製御朱印帳が配られた。

**ご案内**

横濱市仏教連合会では、春と秋にこのような仏跡参拝旅行を企画しております。適宜ご案内させていただきますので、皆様のご参加をお待ち申し上げます。

横濱市仏教連合会 員寺院を通してお申し込みください。





**春の仏跡参拝旅行**  
 皇居内特別参観と  
 柴又帝釈天・護国寺参拝の旅

平成二十八年四月十八日に横  
 浜市仏教連合会主催 皇居内特  
 別参観と柴又帝釈天・護国寺日  
 帰り参拝が、バス三台 十九寺  
 院、百二十名の参加で行われま  
 した。

天気に恵まれ天理ビル前に八  
 時に集合し、柴又帝釈天に出発、  
 約1時間半で帝釈天に到着、帝  
 釈天は正式には「経栄山 題経  
 寺」江戸時代の開基とされてい  
 ます。



境内に入りお茶の接待の後  
 に、帝釈天拜殿にて御祈願、帝釈  
 天の板本尊を一人一人お参り  
 し、法華経説話彫刻を彫られた、  
 お堂の彫刻の説明を受け案内ま  
 た、遼溪園の素晴らしい庭園の  
 拝観をさせていただきました。

その後「男はつらいよ」の寅さ  
 んで有名な参道へ、やはり草だ  
 んご、ほかにも漬物など色々な  
 お店を散策。どのお店にも寅さ  
 んのポスターが貼ってあり、今  
 でもどこかに寅さんがと思いま  
 す。

昼食は夏目漱石や松本清張の  
 小説の舞台にもなった川魚料理  
 の「川甚」さん。



山本会長の挨拶のあと、参加  
 者皆様が鯉の洗いなど堪能いた  
 しました。

昼食後、皇居へ出発。皇居は一  
 日に二回午前と午後に参加が行  
 われ、各五百名の参観が出来ま  
 す。参観には事前に宮内庁に名  
 前の登録をいたします。(個人の  
 場合、最近はその日の受付も出来  
 る様に変更されました) 桔梗門  
 に集合し、持ち物検査を受けま  
 した。



は、とても素晴らしいです。約一  
 時間徒歩での参観ですが、とて  
 も素晴らしい、一同感動であり  
 ました。

その後、関東五大本山の一つ  
 である護国寺へ。

真言宗豊山派の本山で、特に  
 参拝した日は十八日であり、本  
 尊「如意輪観音」の月に一度の御  
 開帳でした。

夕刻に到着したため閉扉の法  
 要に参列が出来、護国寺の縁起  
 や徳川綱吉や母桂昌院のお話を  
 いただき、法要を厳修いただき  
 ました。

この参拝で帝釈天様 護国寺  
 様の僧侶の方々や、ご紹介やお  
 手配いただいた御寺院様、BS  
 観光様のおかげで、大変素晴ら  
 しい旅行になりました。

心より御礼申し上げます。ここ数  
 年来、一番多い参加者となり、秋  
 にも行われる参拝も楽しみであ  
 ります。



その後貫主様からは、弘法大  
 師様の「虚往実帰」(虚しく往き  
 て実て帰る)を引用され、このお  
 寺に来られ、満ちてお帰りくだ  
 さいとの言葉を頂きました。

また、この護国寺は茶道で有  
 名であり、参加者一同にお点前  
 を頂きました。境内には富士塚や  
 庭園など素晴らしい散策し、帰  
 路につきました。

<p>横浜市仏教連合会常務理事      港北区仏教会長      真言宗大覚寺派長福寺住職</p> <p>村 上 宥 真</p> <p>〒222-0026 港北区篠原町二七五四      電話 四〇一―五二七六</p>	<p>横浜市仏教連合会常務理事      泉区仏教会長      浄土宗西林寺住職</p> <p>大 橋 俊 史</p> <p>〒245-0003 泉区岡津町一四三二      電話 八一一―四三〇五</p>	<p>横浜市仏教連合会常務理事      泉区仏教会長      浄土真宗本願寺派長光寺住職</p> <p>菅 原 紹 雄</p> <p>〒247-0007 泉区小菅ヶ谷四一―二七      電話 八九一―四五七六</p>	<p>横浜市仏教連合会会計      臨濟宗円覚寺派海蔵院住職</p> <p>中 村 重 和</p> <p>〒244-0003 戸塚区戸塚町四二―一三      電話 八六一―四四一一</p>
<p>横浜市仏教連合会会計      曹洞宗本覺寺副住職</p> <p>守 長 秀 文</p> <p>〒221-0833 神奈川区高島台一―二      電話 三二二―〇一九一</p>	<p>横浜市仏教連合会会報・広報担当理事      高野山真言宗最勝寺住職</p> <p>大 沼 行 正</p> <p>〒221-0864 神奈川区菅田町二七―三      電話 四七一―九一五三</p>	<p>横浜市仏教連合会会報・広報担当理事      法華宗陣門流勸行寺副住職</p> <p>西 山 聡 達</p> <p>〒220-0002 西区南軽井沢九      電話 三一―三五五七</p>	<p>横浜市仏教連合会会報・広報担当理事      曹洞宗貞昌院住職</p> <p>亀 野 哲 也</p> <p>〒233-0012 港南区上永谷五―一―三      電話 八四三―八八五二</p>
<p>横浜市仏教連合会専務理事補佐      高野山真言宗遍照寺住職</p> <p>柴 義 彰</p> <p>〒240-0012 保土ヶ谷区月見台三八―三一      電話 三三一―〇一五六</p>	<p>横浜市仏教連合会専務理事補佐      曹洞宗東光寺副住職</p> <p>志 村 尚 雄</p> <p>〒240-0042 保土ヶ谷区上星川二―三四―一      電話 三八一―〇八〇〇</p>	<p>横浜市仏教連合会専務理事      曹洞宗隨流院副住職</p> <p>西 村 健 伸</p> <p>〒240-0045 保土ヶ谷区川島町五〇―一      電話 三七一―三五七四</p>	<p>横浜市仏教連合会顧問弁護士</p> <p>遠 藤 隆 也</p> <p>〒221-0022 (自宅) 神奈川区白幡上町一八―三      電話 四三二―六一九二      〒110-0015 (事務所) 台東区東上野二―一八―七      電話 〇三―八三二―二八一九</p>